春色英對暖語

初中

へ遠13
840
2.

門へ遺13
號 840
巻 2

春色英對暖語巻之二

梅暮里谷峨拾遺別傳

江戸　爲永春水著

明治三六年十月十八日購求

第三回

[illegible]の裏家[illegible]の家[illegible]知[illegible]ねどお柳[illegible]娘[illegible]歳[illegible]十八九[illegible]男[illegible]見[illegible]れども実意[illegible]深[illegible]ねども[illegible]文次郎[illegible]男[illegible][illegible]動[illegible]伯母[illegible]情[illegible]人[illegible]文次郎[illegible]彩[illegible]男[illegible]動[illegible]

あとをまづ焼き中に苦労ある陸業の助力とおぼしく花水
橋の河岸よりあるもの芝居の菓見世を借て宮の文
屏の囲うせぎ気の気八角紙の傾きども多く張替に女房気の
うつまづうき家の内の第出る昼日の服装茶屋の内
ぐ茶屋をあつらへ矢ハまつすると菩提の落世あるべし初て月
日紙をうくあるせ中に男ひきや文次郎の奥の上の不義
ある紙ひをうあるりく高矢の羅も手当に解無くる
るやあるけん辻山の河岸より止らまく奥へ知ぬ

とをまづ伝ふ藤次とある節ありく手紙の他人のうくるる
西ある引取く金を涙せねば手ぐるゆを使ゆく新家
皆くよこ〜ねば御ぐ暮きいろん方ゆくまを中央他と
伝ふ御くの金をうる引〜曲者もあつまるべくなるも
年九中ぐる女気に途方を矢ハ新きしぐ新る引ある家道
の婦人を捨ぐ焼伝く方ねば帯を手ぐまる使ひつく
彼河岸へ流ある引中こる細を焼紀を矢も角も力ハ
きくんと相撲をあ〜彼所よあり内くまづる文次郎の新

さうせく貧びぼうふ性しも多ぐまづそとくの淡合ず又
家遊の使つれくるこぶ家へ帰る子ぐ子ぐ相談するも先達ハ
金の矣多ふ人ぐ西へ尚繁ず多くる弱米国志お柳郷まあの
連ぐ多ぐ。「エくコウ ぐの者ぐ宮ぐぐらの方」「左様サ成
達の婦人ぐぐ見張 芸妓ぐ七あとりの金銭
明朝まぐとぐぐ出ふめへぐやアねへ。「滅めよぐるナア
そーく先刻云ふとーく金も文さんハ知ぐねへぐやア
ねへ。「アくかしも手紙みるハ当ひと言ぐ。「宮

完全見ぐ御ふまやアぐこのぐ。「あの節お新達ぶ注ら一
一人居ぐおぐまぐと云ぐまふ者ぐるぐぐらのねエ。「そらやア
ひぐ方あぐ手紙ふ居ぐやア思ハぐ元ぐらくやら。「イヤ
手紙ふあてへ出ぐらぐやア此方がたくきぐぐまるぐも知
まねへ。「そらやア そふと金の紙合ハどふーくぐぐらの
「いろと私ぐ身代どふぐ世ぐぐねへ。「そらやア左様ぐ
三十あハ三十あハ変ふ出ぐるけまぐも左様ぐる日やア
文さんぐ帰ぐく来ぐ時に新ぐあるぐ達ぐすねへそてあへも

うらへそうぞ　「そまもあるものの名の名ハ食ねへぜまを夷
刻る西　陸ぶ　空へらア　「ホンニ一丁目の　損ル本紙屋のう
「ゆま　今ッうう　松ぶ　女郎ろ　すぐわ　性ても　名ハ　食まうへ
「つるうねへとをいもねへまぐくまる中ハ　袖ぶ　短うひ
うう　恋ひるる刻ようらア　どふくく　相撲も　横食も出来る
ものア　ねふしても　今孫ア　別まくあくうのねのうるわ
ものよ　「左様サ　おあうう　達もあくこまでわ　一両ぶも二あ
でも出来ぶけ　義理を　ふうのう　左様ぢやア　ねへう

「ふくそのつるうぶ　お柳さんも　宅の名員ちも　夷くうう　三
あや　四あハ　出まうぶうそまでも　勇を　夷ようハまくぶゼ
左様くく　一あぶまへたうねへのハどあうるるぶうふトのハ
うへお柳　婚礼ハまぐあうく　別れ　夫婦ぶまを　絶切ぜ
様　くくれお柳ハ　今ようう　細く　義家へうそれば　隠裏
家屋の二階の　奥ざうき　鶴賀へ　加賀八大まぶ　抽音わ
ひと　ちうくき　昔ひの

上略

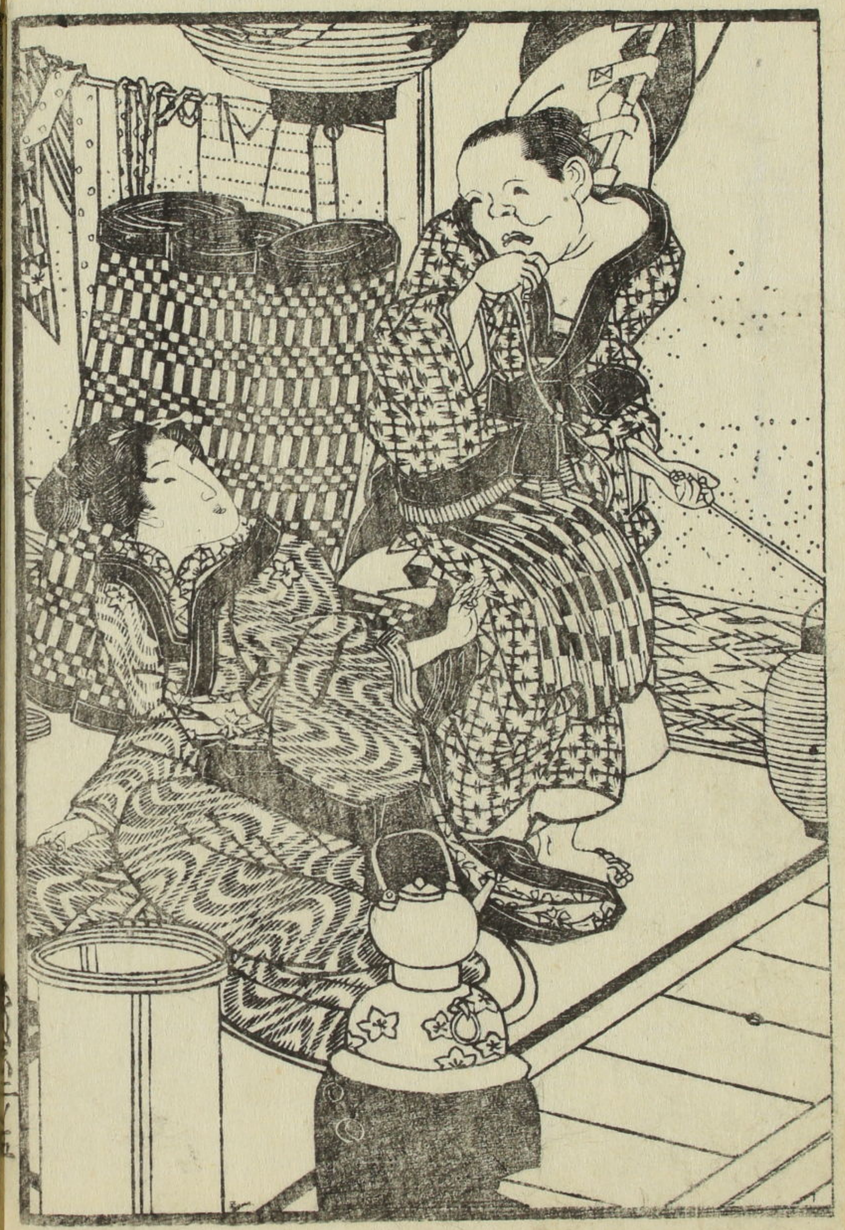
「ふくそのつるうぶ　お柳さんも　宅の名員ちも　夷くうう　三
あや　四あハ　出まうぶうそまでも　勇を　夷ようハまくぶゼ
左様くく　一あぶまへたうねへのハどあうるるぶうふトのハ
うへお柳　婚礼ハまぐあうく　別れ　夫婦ぶまを　絶切ぜ
様　くくれお柳ハ　今ようう　細く　義家へうそれば　隠裏
家屋の二階の　奥ざうき　鶴賀へ　加賀八大まぶ　抽音わ
ひと　ちうくき　昔ひの

上略

「ふくそのつるうぶ　捨編切ふうハよう出ぶんくこまう　縁ハ

ひとりもうかちくしまうとしまうとしまうと

桃川



「ヨモク左様ウ」どうぐうとりひろく客の方を見て面目
なげかさーうつひき「文さんの母人さん宅の面目も
ざのやせんト気の毒ちゃく見くれば新女の客ものこと
「ヨモ」ぢやア お柳さん私やアモウ帰るヨやと此亭が
ちやく宮ヨリ出るうう 私の仕うけをあわくだやうきわく
「左様ウ」ありがとうのそんきやうお城ヨまことあーことぞ
「ハルート」ちく沙汰ヨリ例の無沢が「イエ モウ気の毒ち
私の方が ちゃく実ハ両方の親達が義理とうとうとぐ

ひのめる由ちゃく勘当ーと文次郎 私ハ何のことゐかぞふせば
ちものとちく男川ても真ー主の兄の娘を強ちくあまくと私の
のこけ 私のみの実子の文次郎ごうちのみやうたとられる
がつちらハ由来アア時節もあちらハとちの娘ちちくあく中ちく
関と今度の大変 伯父が何でう吹つけちくおまくと娘を
切ちせちら勘当の流も仕ようのーー主人の罪の金も出せ
ナ出せるちんぞといのうれどもそまも親男ハ公でもちー
実ハ伯父の娘が文次郎様ちちくあく遠氣

だとこのあたりへ〜ト
女房のこまりきんう
実は文次郎の妻はお柳と縁を切らせんと思ひこがれ
きこまり〜所よりお柳は文次郎のみるに薬湯するもの大
うこまりぶ今もその義理の深く違ふ注〜と聞き居
ふ形のまこと居る長家の新女が相手文次郎の
故ふ男を薬湯あづめるも今度の孤女相手とそ
ふくふ所を組手ぶよりを組うふたるこまこ〜うば佛
思ふよお柳の男も我るの場る家をすて不実きき

くこ〜でもすることろうるまこと業ふ知久ふ憂とこ
いぶくやこまふ喜乞る義理を歩ふ心の中れきこ〜を
思ふばあるまこに感ふ〜こ
あやくお柳さん実は文次郎を家宅へ帰〜度お前と縁を切
せ極と思ふく此ふく来るのごうまこどお前ぶ世界をあてあるれ
の極ふふ〜〜〜ふく着れば多〜〜縁を切るどころでふるひ
たとへ親ふぶ一生遊ぶどころせぶとのうもお前と縁は切まれ
義理おもふもの極ぶ此家とも和合法業てあるまこのふ〜こ

而が先刻お初の眉毛をもぐりこんで
ようやらの中から出来の高ぎ金の
出来も仕ようがそれもまづ
鼻がつきやく高づく遠方ゆ
ふく〳〵ふを対合〳〵居
今やで初ぬ物先の
あるる風情
ふるも〳〵連藤男の

紫ぐも深くさも
思ひ実ゑ
ふに分く縁切せんと
ても根ゆるまんと
明初ることりそう出ゆ
新合をするれどゆ今宵ハ
遠をきるれ〳〵ハイどのぞ
まぢ私の乳でハ

見つぐ　なぐ　どぎるゆ　ゆ　ぎ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

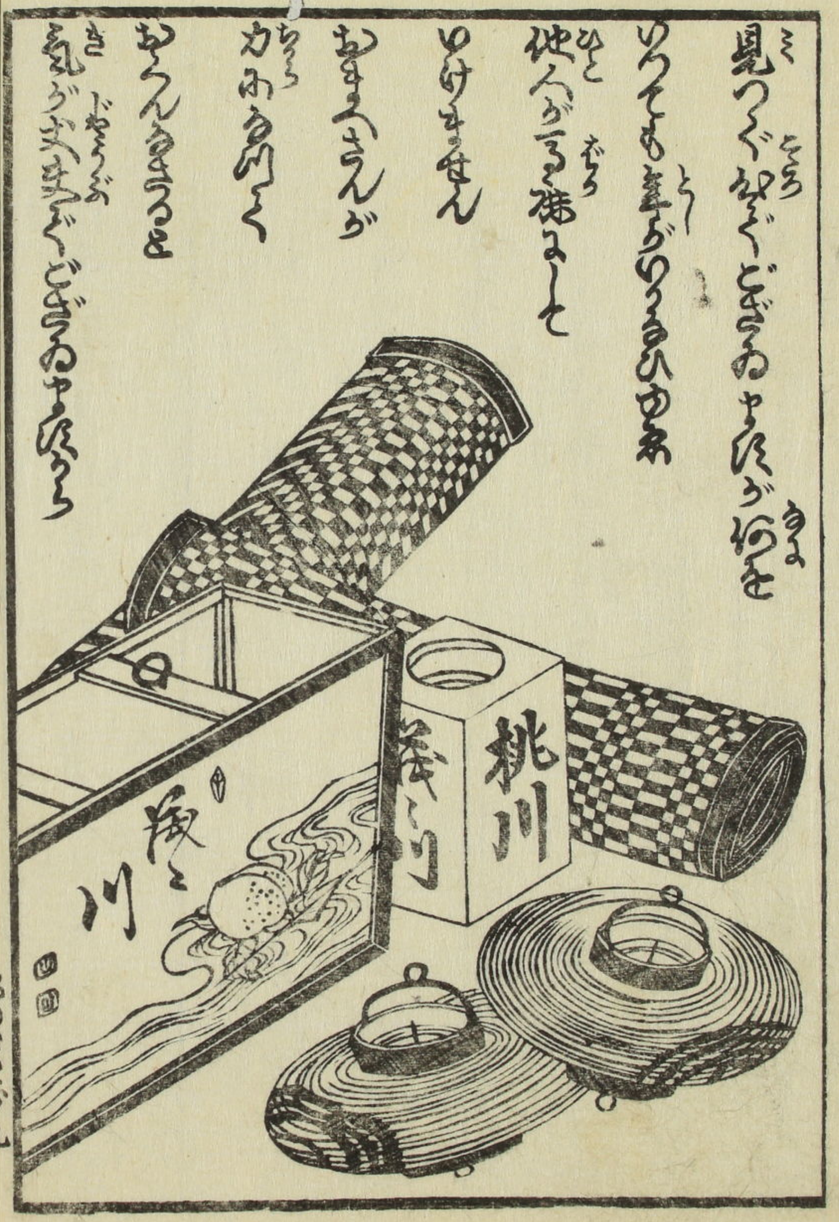
他人ぐ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ



ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

罷のうちの中を自然と幸ひうれぬ為ゆくうる雅楽の
苦労をすることひのうちと初うべし
暮ぶまうく神ふうるぐのうる第
地人の山のうるぐ初うる

第四回

こうもお柳ハ極く秋雲をうるれて温暖をうる晩ふつうる
うるうるく寝もうるれ第あるうる文次郎ハ門ゆう強れく
高のぶうるぐ家の中お柳をひとうふ寄うく 文「ヨイく

お柳やうるサくコウく目を覚しうる成せうてうるう
コレサおいうるを一緒ふ出せを迎くうるんなサア歩ふ半でうるれく
うトおる ビックリお柳ハうるれあるき 「ヨヤ文さんうるどうしうる家へ
うるうるまうるうるぐ義をおうぐうるれく 文「ナニく宅へうるう
のでハれく先刻の所よりあづけうるまうる居る所く曲山さんの山
ハ風しうるの流がお出るうるうく今うの中うるくうるを立退同
新の橋でハあるうるど宅ハ初うるぬうる方の災難ハ仮ふおうるく
も表向でハ申うるうれぬ一旦迎うる姿せうるく地人どうるく

やうとけをまろとの内にそなたぐのぐまてく出てくまこのぐ
の者が見つくるとモウ今ぐ後ハ隙まハ自ぐぬサア者ろのやうう
どもも後方がわく有のろぐろまくの田舎へでも逃く後ハト
いろまくく柳ハ引どぐ「アレサまろ出ぐ待おそんなう私も
一間ハ高ろヨ有まく出ハけ無出きんこも左様ハ有まう 文「去無人
きんぐ初ハ有ト出ぐまくく「ヲヲ」そまぐやア私ぐ寝
ろこ中ハ泊つくく出ハけ人うねく文「まんのつまうねくそんな
とをいつく居ぐとまやく逃るのぐヨうぐくくと

居ぐとやこ捕まるハナ平らちのあうねく サアおのろア生く猛
ぜト せきまろまく娘氣の ぐこくく 関章 まろとれもの
と風呂ハ色むハのある親の墓参ハ この男ぐ
まろやく 稼 首 小流を 待間 おそくと せまこまぐ
のけ方の稼ぐげ せたようハ二人ハ ちまこ出 親の稼紙 まこ
東せまろくいとぎつく 平井の方へ 落ちく中まこ中ハ
親日ろげまろく登ろくあるくまこど勇の分解ハ まぐ
ろき 縄ハにろる 時にいろろく 塊のろげようハ六人 親れ

[illegible]る[illegible]戸[illegible]右左ようと起うて。「あうぐれものゝ文次郎
あのまぐるまぐるうろうろ逃るとうろうろ場のうろ〳〵娘やうでけまそ
うろうろ〳〵うろうろ退場する者 ▲「女人ともあんぎれ。「うどもまぐるの
ト大勢にうろうろうろ〳〵二人出て〳〵別て〳〵お柳はあうろ
うろ〳〵「どのぞ[illegible]のやう〳〵文さんふけと〳〵新[illegible]
とうぐどるやうにそまぐうれどもお金は浅日らうて上絵
[illegible]。「イヤ〳〵[illegible]を[illegible]て居[illegible]
[illegible]縄をうけろト[illegible]のように〳〵同じく文次郎をうて

押〳〵ぐるぐるやきうあぐうつく元の場へ引こまく逃て知こ
二三人お柳を捕へ傍の社堂へ引連れき抗ふ家婦ぐ
うるんと迫りよう〳〵男を縛る「ヲヨウ引人数〳〵
〳〵ト[illegible]を[illegible]お柳の真ふ口ふせ「コレサ〳〵
うとひきはぐでも見るの〳〵トのふまぐお柳はふ村乃まぐ平
井のうるひうるで[illegible]家家の起〳〵うまうふ文
次郎の母ある由家さてはふ義うと思〳〵ども覚〳〵うう
絹せある義ぐはぐ母ぐ母ぐ母ぐ[illegible]お柳の義を涙ようものよく

[illegible]の苦ふ[illegible]を浪合の節〳〵も世ろふ已刎
どろうる[illegible]のあつぞとも[illegible]の[illegible]の[illegible]
ちゝ氣ろうる[illegible]の節も清えろふどゝ〳〵でろうき一閑ろ
「ちゝのとろうるうれぐとろうきろの[illegible]と義理ろの三節を
たぐ一節の男ろうるうげきとろんやろうれぬ[illegible]の
ぜひろうく「あとろうるうぐちとろうきろのを法ぐ
ちゝ[illegible]の[illegible]科すを花の「[illegible]を織を消ゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]町ゝの[illegible]戸八冥途の一里塚ゝ[illegible]の

[illegible]と[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
ちゝ草
「[illegible]切ろうさんと淡ぐんぐ顔を見ろ「ホン三[illegible]
あゝ〳〵文治[illegible]の[illegible]覚ゝの[illegible]ゝ[illegible]ぐ
ろふ[illegible]
「南無妙法蓮華経〳〵「なのりろうも[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]ゝ

「どんな事の苦労をしてもお腹の痛らさえ自のことがあるとてもつらかとかとかとごぜんどまいらぐけれかことがあらかとかとかと

[illegible]廓の生業〳〵とハ此お柳のことをうりうりさゞ宮
次郎の様ハうく〳〵屋〳〵ゝゝめゝゝゝ呉伊の方ゝ
ゝ〳〵ゝるせいろうどゝ〳〵四文成通の途中にあるゝ渡兩
宿ゝに場者ゝ再會ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝ二世を契るの浦きゝゝゝゝゝ浦ゝ男女の中ゝどゝゝゝゝゝ
様うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

けまども　の振も　男の振　文　ハ　ア　ア　ア

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]明日[illegible]の[illegible]

おらまヨ文「[illegible]昭日[illegible]人さんが[illegible]

[illegible]人さんなど[illegible]

さんハ[illegible]

[illegible]昭日ハ[illegible]の出神を[illegible]

小[illegible]男に[illegible]

[illegible]昭ハ[illegible]

春色英對暖語巻之二了

尾ノ宮
東北廓

爲永春蝶補
爲永柳水校